

「町ぐるみん白岡」だより

缶バッジ図案作成者に聞く

「町ぐるみん白岡」では、昨年シンボルデザインを募集し、缶バッジを作成しました。今回は、図案作成者の星野絢香さんを県立白岡高校に訪ねました。

星野さんは、白岡高校2年生で美術部に所属し、将来はデザインやイラストの仕事に就きたいという目標に向かって努力している、頑張り屋のお嬢さんです。

自分のデザインがバッジに採用された感想を聞くと、「驚きました」と、第一声。そして少しはにかみながら、



「家族が仲良く幸せそうにしているから、」



インタビューに答える星野さん(右手前)と波田野先生(右奥)

「様子をイメージして描きました」と笑顔で答えてくれました。

普段と違う丸い図案に戸惑いながら描いてくれた缶バッジのデザイン、大切にしていきたいと思います。

美術部の一員として

部員21人の白岡高校美術部は、毎年白岡八幡宮に大きな絵馬を奉納したり、白岡駅前物産館の看板に絵を描いたり、私たちの生活に潤い



白岡八幡宮に掲げられた絵馬(白岡高校美術部制作)

を与えてくれています。「部員全員に原画を描かせてどの絵にするか決めていきます」と顧問の波田野公一先生。

「絵馬も看板も雨に濡れても大丈夫なように水性ペンキで描くので色の調合がとても大変です」と星野さん。

さらに「美術部を友達がいれば好きな絵を描くことができ、癒しの空間にしたい」と波田野先生は続けました。こうした雰囲気作りが素晴らしい作品を生み出す素地なのだと感じました。

今後みなさんのご活躍に期待しています。

「つづきの森」冬の集い

12月15日(日)彦兵衛地区の雑木林で、森の大掃除や自然観察会、焼き芋作りなどを行うひこべえの森冬の集いが開催されました。「町ぐるみん白岡」も主催団体に名を連ね市内の中学校と高校にも呼びかけました。約40名の中・高校生たちは、地元有志や自然観察指導員たちと一緒に落ち葉や枯れ木運びなどに汗を流しました。

「初めての体験で大変だったけど他の学校の人たちとも交流できて楽しかったです」「焼き芋がとってもおいしかったです」との声が聞かれました。



「初めての丸太運びは疲れただけれど、お昼の豚汁とおにぎりが最高においしかったです」

「町ぐるみん白岡」の日

「町ぐるみん白岡」では、活動趣旨を重点的に普及推進する期間として、毎年5月と11月の第3日曜日を「町ぐるみん白岡の日」、その前後1週間を「町ぐるみん白岡週間」と決めました。

初めての週間となった、昨年11月には「わんぱく笑(商)店街」でパンフレットを配布し、普及推進活動を行ったほか、市内の学校や幼稚園、保育園を通じて「我が家の約束チェックシート」を配布しました。回収した情報は、今後の活動の参考にして参ります。



あいにくの空模様の中、パンフレットを手渡す「町ぐるみん白岡」理事

最近、健康と肥満解消のために歩くようにしている。歩いてみると、何の変哲もない田んぼや川から、ほっとする何かを感じられる。一方、近隣の市町に行くと同様に人工の自然が作られている所もある。きれいで整ってはいけるけれど、白岡にある安堵感はない。白岡は素晴らしいまちだ。私は散歩コースでよく川沿いを歩く。川が他の川と交差する「伏越」や「掛樋」等が市内には9か所もあり、全国的にも珍しい。また、野牛地区は江戸時代に新井白石の知行地であり、白石の自筆の漢詩や絵馬等が今も残っている。さらに、「やはり、白岡の梨の味は最高だ」と自画自賛する梨の生産量は県内第2位を誇る。そして、白岡は住みよいまちだ。県内でも人口が減少している市町村が多い中で、白岡は5万人を超え、昨年10月に市制施行が行われた。温故知新。今、私の勤務校ではお昼の校内放送で、子どもたちが作った「ふるさとクイズ」に取り組んでいる。「白岡が大好きだ」という子どもたちに育てていきたい。

白岡が大好きだ

(白岡東小学校長 長島秀夫)

ライオンズ奈良原コーチ来る

今年の「スポーツふれあい広場」は、白岡出身の埼玉西武ライオンズ奈良原浩コーチをお招きして、1月21日(月)白岡東小学校体育館で開催されました。子どもたちは、カラーボールを使ってキャッチボールをしたり、ティーパツティングをしたり、楽しく身体を動かしていました。



「初めてバットを握ったけど、奈良原コーチのおかげで、ボールを打ち返すことができました」

活動抄録

- ▼ 5月16日(水)理事総会・はびす白岡
- ▼ 8月29日(水)学校応援団交流会・はびす白岡・94名参加
- ▼ 10月20日(土)篠っこ祭り支援・篠津小学校
- ▼ 11月23日(祝)わんぱく笑(商)店街支援・白岡地内特設会場
- ▼ 3月2日(土)南小カレールーティー支援・南小学校
- ▼ 常任理事会・会議2回
- ▼ 普及推進委員会・会議8回
- ▼ 企画運営委員会・会議8回
- ▼ 広報委員会・会議6回

編集後記 「市になっても町ぐるみんですか？」と聞かれますが、白岡市になっても「町ぐるみん白岡」です。市民一人一人が地域の子どもたちを見守り、力を合わせて子育てをする姿勢に変わりはありません。「町ぐるみん白岡」の輪がじわじわと広がっていくのを実感しています。今後も皆さん、どうぞ力を貸してください。(新津きよみ)